

〔後水尾院當時年中行事上正月〕十五日、修理職の者○註略階にす、みて、御吉書を給はりて、三撫打の
もとにあゆみより、御吉書を入れ歸り參る。藏人階の南にある燭だいのろうそくをとりて、修理
職の者にあたふ。

〔公方様正月御事始之記〕一玄よのめい披露の事、様體は大なる益に香爐、同ちいさきそく臺にら
うそくをとぼして、玄よのめいをも益にすへて、蔭涼軒被渡候を請取申、御前へ持參申候。

〔三好筑前守義長朝臣亭江御成之記〕一三月四〇永祿四年、卅日未刻御成、足利義輝、中略

一舞臺燭臺二、狼烟も二所に在之、

〔玉露叢七〕寛永三年九月六日ニ將軍家○家光、徳川之二條ノ亭へ行幸アリ、略中

御進物之品々略中

一鶴蠟燭立一也金

〔玉露叢十三〕一同年十六〇寛永ニ江戸大火、此時御城回祿ス、御城御普請出來シテ、御移徒ノ時、御一門
及ビ諸大名衆ヨリ獻上物ノ品々略中

一御燭臺十

一御手燭十

一御燭臺十本

一御手燭十

〔諸國はなし〕大晦日は合はぬ算用

誰方にも此金子の主取らせられて、御歸りたまはれと、御客一人宛立たしまして、其後内助は
手燭ともして見るに、誰とも知れず取つて歸りぬ、

〔守貞漫稿十八〕嘉永二年印行、古風ト流布トヲ、相撲番附ニ擬スル、其流布ノ方大關以下左